

鈴木 明彦<sup>1</sup>: 徳島県鳴門市へのオウムガイの漂着

Akihiko SUZUKI<sup>1</sup>: Stranding of *Nautilus pompilius* on the beach of Naruto City, Tokushima Prefecture, southwestern Japan

オウムガイ (*Nautilus pompilius* Linnaeus 1758) は、太平洋熱帯海域に広く生息する頭足類の一種である。一般にオウムガイ類は、水深50~600m前後を垂直に移動するため、殻の内部に浮力を調整するための隔壁構造を持っている。このような特殊な構造をもつので、オウムガイは死後も殻の内部に海水が浸入しない状態で、長期間にわたって浮遊することがある。そのため、海流によって本来の生息域から離れた海域へと運搬され漂着することが報告されている (Hamada 1977 など)。また、日本列島沿岸へのオウムガイの漂着記録に関しては、浜田 (1965, 1966), 中西 (1990), 池田ほか (2006) など多数の報告がある。

今回、筆者は徳島県北東部の鳴門市千鳥ヶ浜 (図1) において漂着オウムガイを採集したので報告する。

鳴門市千鳥ヶ浜は、鳴門海峡に面した鳴門市北部に位置する。この付近には白亜系和泉層群の堆積岩類よりなる岩石海岸が連続し、その間にいくつもの小規模な砂浜海岸が見られる。

オウムガイは、2005年9月8日、千鳥ヶ浜に漂着していた (図2)。漂着地点は砂浜の高潮線にあたり、オウムガイは木片やプラスチック浮きなど浮遊性の漂着物とともに存在しており、これらとともに砂浜に打ち上げられたことが窺われる。

漂着オウムガイは、殻の一部が破損しており (図3)、殻長118.2mm+, 殻高96.3mm, 殻幅72.3mmであった。残存部の殻の表面には明瞭な火炎模様が見られた。開口部の大半は破損していたが、螺層部はほぼ保存されていた。なお、殻表面と殻口内壁には石灰藻類とイシサンゴ類の付着が認められた。

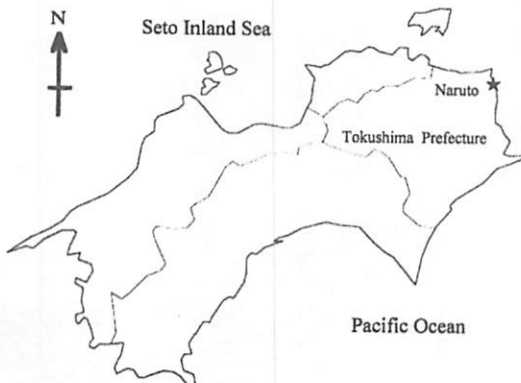


図1. 徳島県におけるオウムガイ漂着地点。

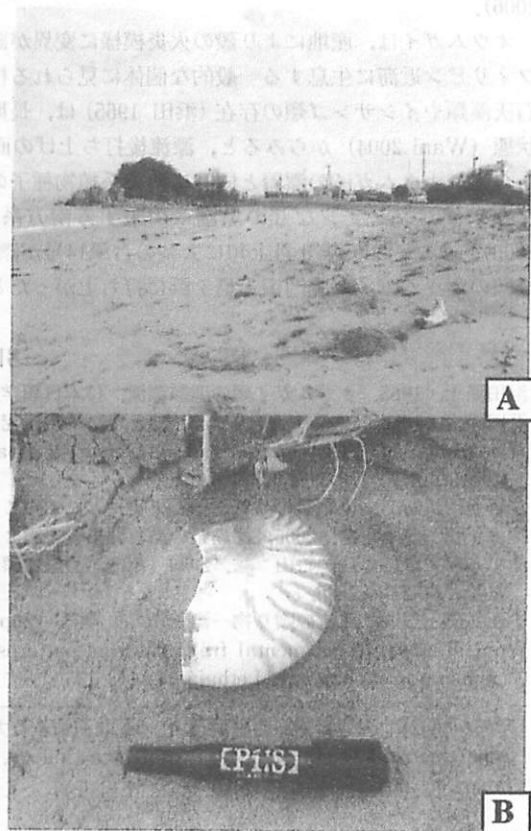


図2. 鳴門市千鳥ヶ浜の漂着物。  
1. 高潮線の漂着物, 2. オウムガイの漂着状態。

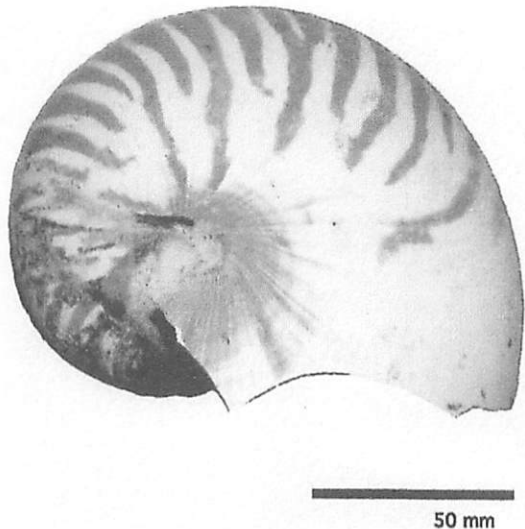


図3. 漂着オウムガイ。

日本列島の周辺海域におけるオウムガイの漂着は、太平洋側では茨城県以南、日本海側では秋田県以南の海岸より報告されている(浜田 1965; Hamada 1977; 中西 1990など)。しかし、漂着して採集される試料は、多くの場合破損が激しいことから、詳細な記録が報告されたものは限られている(浜田 1965; 池田ほか 2006)。

オウムガイは、産地により殻の火炎模様に変異が認められる。今回採集されたオウムガイの殻の火炎模様は、フィリピン近海に生息する一般的な個体に見られる模様に類似していた。また、殻口内壁における付着生物の石灰藻類やイシサンゴ類の存在(浜田 1965)は、長期間の海洋浮遊を指示する。また、開口部の不規則な破損状態(Wani 2004)からみると、漂流後打ち上げの直前に破損したものと推定される。

今回、オウムガイの漂着と同時に南方系植物種子のモモタマナが採集された。徳島県では、各地の海岸でモダマヤゴパンノアシなどの黒潮に由来する南方系種子・果実が採集されている(茨木 2003; 池淵・茨木 2005)。また、2005年9月上旬に大型の台風14号が漂着地点の北を通過しており、南から東よりの強風により、今回のオウムガイが鳴門市千鳥ヶ浜に打ち上がったと考えられる。

#### 引用文献

- 浜田隆士. 1965. オウムガイ類の遺骸漂流. 日本貝類学雑誌 24: 181-198.  
浜田隆士. 1966. 日本のオウムガイ, 昔と今. 地学研究(益富寿之助博士記念号) 221-238.  
Hamada, T. 1977. Distribution and some ecological barriers of modern *Nautilus* species. Sci. Pap. Coll. Gen. Educ., Univ. Tokyo 27: 89-102.  
茨木 靖. 2003. 徳島県の漂着種子と果実. どんぶらこ 6: 1-4.  
池淵正明・茨木 靖. 2005. 徳島県の漂着種子と果実 2. どんぶらこ 12: 6.  
池田 等・倉持卓司・竹山 紘. 2006. 相模湾沿岸に漂着したオウムガイ(軟体動物門: 頭足綱)の記録. 神奈川県自然誌資料 27: 87-88.  
中西弘樹. 1990. 海流の贈り物—漂着物の生態学. 256pp., 平凡社, 東京.  
Wani, R. 2004. Experimental fragmentation patterns of modern *Nautilus* shells and the implications for fossil cephalopod taphonomy. *Lethaia* 37: 113-123.

<sup>1</sup> 〒068-8642 北海道岩見沢市緑が丘2-34 北海道教育大学岩見沢校地学研究室

<sup>1</sup> Department of Earth Science, Iwamizawa College, Hokkaido University of Education, Iwamizawa 068-8642, Japan